

瀬 魚 一 本 釣 漁 業 試 験

(一) 趣 旨

屋久島近海及び七島近海の一定海を重点的に継続操業し、漁場位置の確保につとめると共に、漁獲増進を計り、あわせて小型漁船の漁場探索に協力の目的で試験操業を実施した。

(二) 使 用 船

試験船 ちどり丸 19.57ton 50HP NEC103型魚群探知機 25W無線電信機 2k、5k発電機

(三) 期 間 従業員数 総漁獲 水揚金額

次 数	摘 要	期 間	従 業 人 員		魚 種	総 漁 獲	水 揚 高	手 取 金 額
			調 査 員	船 員				
1		昭和31年 6.29—7.6	肥後道隆	10名	チビキ、イナゴ、ホタ	108.000	105.600	34.318.00
2		9.15—9.21	塩田正人	9	ホタ、クロマツ、アカバラ	400.078	393.570	165.414.00
3		9.24—10.4	〃	9	ホタ、クロマツ、その他	553.600	547.600	169.817.00
4		10.8—10.17	又木勝弘	9	〃	458.600	453.600	156.396.00
5		10.22—10.31	塩田正人	9	ホタ、その他	560.800	552.750	175.204.00
6		11.7—11.12	〃	8	ホタ、クロマツ、チビキ、その他	106.500	104.500	28.674.00
7		11.14—11.26	〃	8	〃	174.750	169.750	81.420.00
8		12.1—12.11	〃	9	〃	224.780	221.780	87.782.00
9		12.14—12.21	肥後道隆	9	〃	22.530	21.130	13.961.00
計						2.609.638	2.570.330	912.986.00

(四) 直接経費

摘要 次数	氷		餌料		燃料						漁具 其他 消耗品費	計
	数量	金額	数量	金額	重油		潤滑油		軽油			
					数量	金額	数量	金額	数量	金額		
1	5 屯	10,000 円	サンマ 20 斤	7,500 円	1,147 L	16,517 円	54.6 L	2,263 円	3.6 L	65 円	1,700 円	38,075,00 円
2	5	10,000	スボタ 48 斤 冷凍イカ(15ヶ) 30 斤	9,600 円 6,000 円	1,080	16,230	54	2,700	5	125	7,360	52,015,00
3	5	10,000	メチカ 48 斤 冷凍イカ(12ヶ) 24 斤	7,200 円 5,700 円	1,360	19,448	54	2,700	5	125	15,031	60,204,00
4	6	12,000	メチカ 40.8 斤 冷凍イカ(15ヶ) 30 斤	9,911 円 5,700 円	1,168	16,703	63.9	3,295	3	75	11,867	59,151,00
5	6	12,000	メチカ 29 斤 イカ 25 斤	4,060 円 9,500 円	1,440	20,592	72	3,600	3.6	90	17,394	67,236,00
6	3	6,000	メチカ 15 斤 イカ 22 斤	2,700 円 4,180 円	740	10,656	72	3,600	5	125	14,047	41,308,00
7	6	12,000	メチカ 19.8 斤 冷凍イカ 20 斤	3,564 円 3,800 円	1,200	17,160	72	3,600	18	450	4,557	45,131,00
8	6	12,000	メチカ 20 斤 冷凍イカ 14 斤	3,600 円 3,500 円	1,320	18,876	72	3,600	18	450	7,445	49,471,00
9	3.5	7,000	メチカ 20 斤 冷凍イカ(4ヶ) 8 斤	6,000 円 3,000 円	954.5	13,650	64	3,200	2.5	92.50	5,110	38,022,50
計	45.5	91,000	メチカ サンマ イカ } 433.60	95,115 円 10,409,500 円	149,832	578.5	28,588	63.7	1,567.50	84,511	450,613,50	

(五) 漁具

- 幹 縄 : かきのう(麻糸) 10~11号 250尋 柿渋染
 : 絹まがい 7匁 3子撚 30尋 又は合成富士 3分8厘 17尋 縄付鉛 4匁程度のもの 50ヶ 200匁
- 幹 糸 : ナイロンテグス(銀鱗) 3分4厘 又は合成富士 3分8厘 枝間4尺 30~40尺
- 枝 糸 : ナイロンテグス(銀鱗) 2.4~2.8分 3尺5寸 8~10本
- 釣 鉤 : タルメ釣 2寸~2寸3分

錘 : 鉄製卵球状 250匁 又はセメント製 卵球状 200匁大
 カンショウゴム : 長さ 1尺 巾 5分の自動車チーフ

(六) 経過

摘要 次数	月 日	観時 測刻	天 候	気 温	風 向	風 力	波 浪	う ねり	水 温	潮 流	漁 獲	漁 場
第 一 次	31	7.1	bc		SW	2	2	3	26.70°	E	チビキ 10.00	瀬戸沖
	2		o		SW	1	3	3	28.2	SE	ホタ・其他 17.00	小臥蛇島
	3		o		SW	3	3	3	28.2	NW	ホタ・其他 16.00	〃
	4		o		SW	3	2	3	28.4	NW	ホタ・其他 45.00	〃
	5		o		SW	3	2	2	28.4	SW	ホタ 20.00	〃
第 二 次	9,16	6.00	bc	26.5	NE	1	1	3	27.2	NE 急	ホタ 10.00	種子島竹崎S 6湍
	17	"	o	27.5	SW	1	1	2	27.5	E 緩	アカバラ ホタ・クロマツ 40.00	小臥蛇島
	18	"	bc	27.0	SE	1	1	3	27.7	SE 緩	ホタ・クロマツ 120.00	〃
	19	"	bc	27.8	S	1	1	3	27.8	SE 緩	ホタ・クロマツ 120.00	〃
	20	"	bc	27.0	S	1	0	2	27.8	SE 緩	ホタ・クロマツ 100.00	〃
第 三 次	25	6.00	bc	26.4	SE	2	3	3	26.8	E 緩		屋久島E サガリ曾根
	26		台風の為山川港遊泊									
	27		台風の為山川港遊泊									
	28	6.00	bc	23.4	N	3	4	4	27.0	NE 急	ホタ 1	口之島北端
	"	12.00	bc	27.0	N	3	4	4	26.8	SE 急	〃 55.00	小臥蛇島
	29	6.00	o	25.5	NE	3	3	3	26.8	E 急	〃 90.00	〃
	30	"	r	24.4	NE	2	2	3	26.7	SE 緩	〃 120.00	〃
	10.1	"	bc	24.8	ENE	3	4	3	26.7	SE 緩	〃 100.00	〃
	2	"	bc	24.6	E	2	2	3	26.8	SW 急	〃 100.00	〃
3	"	bc	25.5	NE	2	2	2	26.8	SW 急	〃 90.00	〃	
第 四 次	10.8											
	10.9	6.00	o		NW	4	3	3			ホタ其ノ他 40	小臥蛇島
	10	"	b		S	1	1	3			ホタ・クロマツ 120	〃

四 次	11	〃	O		SW	4	4	3			ホ	タ	40	〃				
	12	〃	bc		N	4	4	4			〃		60	〃				
	13	〃	r		N	5	4	4			〃		100	〃				
	14	〃	bc		N	5	5	5			〃		90	〃				
第 五 次	10.23	6.00	O	25.5	E	2	2	3	25.5	SW稍急	中	ホ	タ	約60	小臥蛇島			
	24	〃	r	21.9	NE	3	3	3	25.7	SE急	〃		30.00	〃				
	25	〃	bc	22.2	N	3	4	4	25.6	SE緩	クロマツ	大ホ	タ	110.00	〃			
	26	〃	O	22.8	N	2	2	3	25.6	NE急	中	ホ	タ	65.00	〃			
	27	〃	bc	22.8	N	2	1	2	25.4	SE急	〃		70.00	〃				
	28	〃	bc	22.8	N	2	2	2	25.2	NE緩	大	中	ホ	タ	105.00	〃		
	29	〃	bc	21.9	N	5	4	4	24.8	SE急	中	ホ	タ	75.00	〃			
	30	〃	O	24.9	NW	4	4	3	25.1	N稍急	小	中	ホ	タ	25.00	〃		
	31	〃	O	23.5	NW	5	5	4	25.0						航行中 永田沖			
第 六 次	11.8	12.00	bc	20.8	E	2	2	2	24.6	SE急	ホ	タ	約30.00	小臥蛇島				
	9	7.00	〃	22.0	E	2	2	3	25.0	SE急	〃		60.00	〃				
	10	〃	O	24.0	S	2	2	2	24.4	SE急	〃		10.00	〃				
	11	〃	O	23.4	W	3	3	3	24.0					航行中 屋久島沖				
第 七 次	11.15	7.00	O	20.5	NW	2	2	2	24.5	NE急	ホ	タ	約20.00	小臥蛇島				
	16	〃	O	13.5	NW	7	5	5	24.4		避	泊		臥蛇島				
	17	〃	O	16.0	NW	4	4	5	22.0	SE急	ホ	タ	25.00	小臥蛇島				
	18	〃	r	15.8	NE	5	5	5	24.5	〃	ク	ロ	マ	ツ	15.00	寶島		
	19	〃	O	19.5	NNE	4	4	5	24.5	〃	ホ	タ	ク	ロ	マ	ツ	10.00	〃
	20	〃	O	21.0	NE	4	5	5	24.4	NE急					小寶島			
	21	〃	bc	19.0	NNE	3	4	4	23.6	〃	ホ	タ	ク	ロ	マ	ツ	30.00	小臥蛇島
	22	〃	O	20.0	NE	5	4	5	23.9	SE急	ク	ロ	マ	ツ	25.00	口之島		
	23	〃	O	14.8	NW	5	5	5	23.0		避	泊			〃			
第 八 次	24	〃	O	15.6	NW	6	5	5	23.1	E稍緩	チ	ビ	キ	10.00	〃			
	25	〃	O	15.0	N	4	4	5	23.0	NE稍緩	〃			30.00	〃			
	26	〃	O	14.0	NW	5	5	5	22.7						航行中 屋久島永田			
	12.2	12.00	O	21.3	NW	2	2	2	23.0	SE稍急	ホ	タ	約50.00	悪石島 SW側				
第 九 次	3	7.00	O	17.0	NW	1	1	2	22.7	N緩	〃		90.00	〃				
	4	〃	O	22.0	S	3	2	2	23.1	SE急	〃		10.00	〃				

八次	5	7.00	O	12.6	NW	5	5	5	22.6		避 泊	悪石島
	6	"	O	12.2	NW	1	1	4	22.5	SE 急	ホタ.クロマツ 約40.00	"
	7	"	bc	18.7	NW	2	2	3	22.8	E 急		平 瀬
	8	"	bc	18.5	NW	2	2	3	22.8	SE 急	クロマツ 25.00	口之島
	9	"	O	12.0	NW	5	5	5	22.5		避 泊	中之島
	10	"	O	11.5	NW	5	5	5	22.5	SE 急	雑 魚 5.00	"
	11	"	bc	11.0	NW	4	3	5	22.0			竹島 航行中
第九次	12.14	7.00	O		NE	3	2	4				
	15	"	O		NNW	6	5	5				
	16	"	O		NNW	6	5	5				
	17	"	bc		NW	5	4	5				
	18	"	O		NW	5	4	5				
	19	"	O		N	4	4	5				
	20	"	bc		N	3	3	4				

○ 考 察

今年は一漁場を重点的操業を目的に実施したが一応の成績を得たものと思考する。漁場も七島近海（小臥蛇島、口之島、中之島、悪石島、寶島）を主漁場とし特に全航海を通じ小臥蛇島に於けるホタ漁を目的にしたのであるが、前半にては好漁をしたが、後半に於ては季節風の時期となり、南海域の漁場に移行した為不漁に終った感が強かつた。魚種もホタ（アラダイ）、アカバラ（カンパチ）、クロマツ（ヒメダイ）アラ（ホタ）等一応の餌付はあるが、釣獲魚の主体はホタであり次にクロマツであつた。

◎ 魚探記録による魚群の形状は二、三次航海に於て、小臥蛇島の北西漁場の水深120～150米の場所に於て魚群記録を認めたが、他は全然認めなかつた。記録されたホタ群に於ては好漁したが、同漁業に於ては海底の状況把握だけでも一応の成果は揚げ得る、魚探により潮流、曾根の形状の関係等研究の余地が充分にある漁業でもあり、究明する事によつて一段と好漁がなされるものと思考する。

◎ 潮流と魚の関係は、漁場によつて相当の違いがあり小臥蛇島漁場ではNE、SEに緩漫に流れる時が好漁したが、潮流が曾根の斜面に平行した場合が縄立ち良く操作上も有利な様で、又好漁がある様だ、深所より浅所に流れる潮流には縄のかゝりが多く、漁具の消耗度が高く漁も無い、魚体も潮上ほど大型魚である、潮流方向に於て餌付の良否を判断する事

は早少であるが、流速の影響は縄立ちとの関係もあり、漁獲の結果を左右する事に云える様だ。

今年の瀬魚一本釣漁業は鹿児島港を根拠とする操業船が数十隻も出漁したが、小型漁船の漁場は大島近海より七島近海で、10月～2月頃までつき

◎今年漁場を浅所にもとめた関係上、高度の観測に重点を置かなかつたためと又くわしいデータも取れなかつたので、水温変化による漁況の變化を究明する事は出来なかつたが、漁期を通して記して見る事にする。

9月中旬頃に於ける七島近海の表面水温は、27.2°C～27.8°Cを示し、次第に低下を示していた、10月中旬25.5°Cとなり、11月中旬24°C 12月中旬22.5°Cとなり、月毎に2°C位の低目となつていた。又9月中旬の水深75m層は表面水温より僅かに0.2°Cの低目で大きな差は認められなかつた。

9月～10月の水温25°C～27°C台では、水温80～120m附近に於て、ホタ（アラダイ）の餌付良く、1時間で70貫も釣獲した事もあつたが、水温降下によつてホタ漁場は次第に南漁場に移動した感があつた、以上の様にホタは水温の低下に相当支配される事が思考されるが、之等についてくわしい資料がなく適温棲息位置もつかめないが、クロマツ（ヒメダイ）は水深の浅、深に変わりなく又水温の低下による影響もあまり認められぬ様で広く七島近海の漁場で釣獲されている点からも棲息が広くなされているのではないかと思はれる、餌付の良いのは夕まずめであり、深所より、浅所に索餌するのが判然として居り、他魚に見られぬ事で之がため他魚は夜釣は全体的と云える位に不可能であるが、クロマツのみは潮汐による夜間操業も有利な時がある（この時の魚種はクロマツ、ギンマツの二種類である）

チビキは瀬魚一本釣漁業中一番深い所で漁事されるのであるが、今航海は、水深180～220m附近層で餌付があり、150m以浅には認められない様だ、チビキ又群は仲々探索に長時間を要する、がしかし一度魚群に当たれば釣針全部に餌付するので好漁する事が多々ある。

アカバラもクロマツと同じ様な事が云はれるが群をなして、餌付するのは400匁大の魚群で5メ～8メと大型魚は深所に於て漁事されるが、今年度は9月10月航海にて見ただけであり好漁には恵まれなかつた。

大型漁船は台湾以北（主に八重山、宮古、西之表島周辺、魚釣島）より東支那海と出漁操業し、一応の成果が揚げられた様である、当該漁業は魚群探知機の高度利用により、新曾根の発見、既存曾根の再調査と又大型船にあつては、ローランの使用により優秀漁場の把握が可能となり、一段と漁獲の増進は計られ益々優秀漁業へと進展して行く事と思うが底棲魚族の繁殖問題よりして、近海より沖合への曾根の探索が今後なされるものと思ひ、小型漁船のため七島近海に於ける漁場の把握が必要となる事は、火を見るより明らかな事であり努力する事が使命であらう。

漁場図

